

# IDEA の 輸 出

後 英 太 郎

一昨年秋アメリカ見学旅行のさい各地で“Idea を売る”“Idea の輸出”というような言葉を聞いた。初めの内は一種の流行語かと思っていたが、たびかさなるにつれて現代アメリカの合言葉らしいと感じてきた。一応アメリカほどの資源を持ち、産業能力を誇る国がなにゆえにかく Idea を重視するか不思議でならなかった。しかし後進諸国の進出めざましい今日、自由主義国のリーダーを以て任じるアメリカ人としては、常に新規軸を打出して一步を先んじたいのは人情であろう。かくて『創造の商品化』に走るようになったと想像される。

一般にアメリカ人は創造的感覚において、研究の器用さにおいてひいでているとは考えられない。その証左としてアメリカ国内でさえ数学、理学、化学、天文、気象、航空、オートメ等やつかいな部門の研究には日本人が優位を占めていることでも結構説明できる。アメリカ人はこの欠陥を知っていて、多くの外国研究員を招聘し、また一方、調査機関、統計機関を整備して研究の利用面に役立てようと努力している。政府機関ばかりでなく協会、商業ベースの機関など良く発達している。

頭脳と手先の不利はスタミナと総合力によって克服し、彼等の Idea が商品となるまでは断念しない意欲に満ちているようである。

先進国に比し10年のギャップありと言われるわが国として技術革新のバスに乗り遅れないためには、ここしばらく技術導入もやむをえぬとしても、創造なくしては永久に後塵を拝するのみである。いわんや原料に乏しく、人材の多いわが国としては創造こそは最も有望、かつ無限の商品である。

素養において決して引けをとらぬわが国の研究者、技術者は、わが国の維新にあたってクラーク博士が送った言葉（写真参照）のとおり、気宇を大にして、遠近に理を探り、不屈の精神を以て、天与の才能を高揚されんことを希望します。



写真は筆者が写した北海道大学の校庭に残るクラーク博士胸像台石の碑文

（筆者は取締役・第三製造部長）